

連載の第1回では、日本政府が推し進める健康・医療戦略について触れたが、今回は日本の医療機器市場について述べる。

日本政府の発表によれば、医療機器の世界市場規模は2016年にはおよそ3362億米ドルに達したとされ、20年には4358億米ドル前後にまで拡大すると見込まれている。これについては、我が国のみならず先進国の高齢化や新興国市場が拡大傾向にあることが要因として挙げられる。とりわけアジア地域においては今後も持続的な市場成長（年平均成長率8・5%）が見込まれており、このアジア市場への対応が今

医療機器の市場規模

後の鍵となる。また、世界市場の拡大と併せて各国地域における疾病構造の変化にも目を向ける必要がある。アジア地域における特徴としては非感染症や生活習慣病が増加傾向にあるなど、医療や医療機器のニーズが国や地域ごとに異なる点にも注意が必要である。

16年の医療機器の市場規模を国別で見ると、米国はおよそ1459億米ドルに達し、世界最大の市場規模を有する。日本は約281億米ドルであり、米国に次ぐ世界第2位

医療機器の国別市場規模(2016年)

	市場規模	シェア率
米国	1,459	43%
日本	281	8%
ドイツ	245	7%
中国	188	6%
フランス	132	4%
イギリス	97	3%
イタリア	86	3%
カナダ	67	2%
韓国	58	2%
オーストラリア	48	1%
その他	701	21%
合計	3,362	100%

単位：億ドル

の市場規模である。そして、その市場規模は緩やかに増加を続けており、日本政府が掲げる20年までの達成目標数値は3・2兆円となっている。一方、よく話題となる医療機器の貿易収支赤字については、政府発表によれば年間約0・8兆円に達し、かつその赤字額は拡大傾向であることから、日本企業の国際競争力の更なる強化が課題となっている。

日本政府が掲げる2020年までの達成目標(医療機器開発)

- ・国内医療機器市場規模の拡大 3.2兆円
- ・医療機器の輸出額倍増(2011年約5千億円→約1兆円)
- ・5種類以上の革新的医療機器の実用化

また、先に述べたようにアジア地域においては、今後急速な市場成長が期待されており、とりわけ中国は20年前後には我が国やドイツを抜き、米国に次ぐ世界第2位の市場規模になるものと見込まれている。そのような拡大傾向のグローバル市場においては我が国の地位は相対的に低下することになるが、前回述べた政府が推し進める「健康・医療戦略」のもと、我が国は、国内・国外メーカーによる日本国内での開発投資の呼び込み、革新的な医療機器の開発、そして優れた製品の輸出拡大を行うことにより医療機器産業のより一層の活性化を図ることを目指している。

【サン・フレア リサーチ & コンサルティング部門 コンサルタント 黒川裕己】
(毎週木曜日に掲載)

アジア地域で持続的成長

